

なるほど! ワクワクながの

～NAGANO検定ジュニアの過去問題にチャレンジしよう～



わたしたちの暮らしや市の発展を支える長野市の産業

わたしたちの暮らしは、農業、工業、商業など、さまざまな産業によって支えられています。長野市の産業には、どのような特色があるでしょうか。今回は、長野市の産業について紹介します。

農業

明治初期の長野市の産業を調べてみると、「農家が80%、商家が11%、職工が4.2%」で、ほとんどの人が農業をしていました。中山間地では、麻づくり、養蚕、葉たばこなどが中心でした。その後、他の産業がどんどん盛んになり、令和2年(2020)の国勢調査では、農林水産業で働く人の割合は5.7%になっています。

現在、長野市の農作物で栽培面積がもっとも多いのはりんご、次にもも、ぶどうの順になっています。出荷額では、くだものときのこが全体の3分の2を占めています



くだもの

長野市は、標高が高く雨の量が少ないため、くだもの栽培に適しています。現在、くだもの栽培の中心はりんごで、全国有数の生産量を誇ります。また、ももは、長野市生まれの「川中島白桃」が、全国で栽培されています。他にも、ぶどう、なし、プルーン、あんずなどさまざまな種類のくだものがつくられ、各地に出荷されています。



Q1

4月下旬から5月上旬にかけて長野市一帯で花を咲かせる「市の花」はどれでしょうか。

① りんごの花

② ひまわり

③ りんどう

【NAGANO検定ジュニア第5回(2020年度)出題】 答えはうらの下に

工業

長野市では蚕を育てて繭を生産する養蚕業が昔から盛んでした。明治時代には松代の「六工社」のほか、10数社の器械製糸場がありました。また、菜種油や酒、しょうゆなど地元の農産物を材料としたものも多く製造されていました。昭和初期には、生糸や菓子の製造が増えました。戦争中に都会から工場が疎開してきたため、その後は、繊維を糸状にする紡績業や電気機械工業も盛んになっていきました。



現在の長野市では、食料品工業の割合が高く、働いている人の数などで他の分野を上回っています。また、出版・印刷や電子機器、情報通信機器などの工業も発展しています。

印刷業

明治時代、政府が新聞を保護する政策をとったことや、長野県民の教育に対する関心が高かったことなどから、長野市では印刷業が急速に発展しました。さらに、大正12(1923)年の関東大震災で東京方面の印刷所が大きな被害を受けたため、多くの印刷物が長野へ依頼されるようになりました。今も長野市内には数多くの印刷所があり、大正時代から続く歴史ある印刷所も少なくありません。



Q2

長野市では印刷業が発展していますが、発展の理由として正しくないものは次のうちどれでしょうか。

- 1 長野県民の教育に対する関心が高かった。
- 2 昔から長野市では製紙業が盛んだった。
- 3 関東大震災で東京方面の印刷所が大きな被害を受けたため、多くの印刷物が長野に依頼されるようになった。

【NAGANO検定ジュニア第6回(2021年度)出題】 答えは下に

伝統工芸品

産業の中には、地域の自然や古くから伝わる技術を生かして、長く受け継がれてきた伝統的な産業があります。お土産として買ったり、制作工程を実際に体験したりすることができ、観光に訪れる方にも親しまれています。

竹細工

戸隠の竹細工は、江戸時代から受け継がれてきた伝統工芸品です。材料として使うのは「根曲がり竹」と呼ばれる戸隠に自生する竹(チシマザサ)で、繊維が細く、粘り強いのが特徴です。かつては、ざる、びくなど、台所用品・農具として使われていました。現在では戸隠そばを盛り付けるざるを中心に作られており、お土産としても人気があります。



松代焼

松代焼は、信楽や常滑といった陶器の産地から職人を招き、今から約200年前の18世紀後半に生まれました。当時はそれぞれの窯で違った特徴を持った焼き物を生産していましたが、現在、松代焼といわれるものは、あざやかな青色の器肌に青緑色を流しかけた形に特色があります。流しかける薬の調合に松代の温泉を使用するなど、松代ならではの焼き物といえるでしょう。



Q3

戸隠で江戸時代から受け継がれてきた伝統工芸品は次のうちどれでしょうか。現在では、戸隠そばを盛り付けるざるを中心に作られており、お土産としても人気があります。

- 1 竹細工
- 2 陶磁器
- 3 織物

【NAGANO検定ジュニア第5回(2020年度)出題】 答えは下に

答え Q1 ① Q2 ② Q3 ①